

教 師 ノ ー ト

日付	2011年 4月 3日
単元	イースター
テーマ	祈り
タイトル	オリーブ山での祈り
テキスト	ルカ22:39-53
参照箇所	マタイ 26:36-56、マルコ 14:32-50、ヨハネ 18:3-11
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	ルカ22:42
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	幼1 題3 課5

□導入

今日のお話しは、イエス様が十字架につけられる前の出来事です。

□ポイント1 イエス様はオリーブ山へ行かれました(39-41節)

イエス様は、弟子たちと最後の食事をしてから、オリーブ山に向かわれました。そこには、いつもイエス様がお祈りするゲツセマネの園がありました。いつもの場所と書いてあるように、イエス様はイロイロな働きの間も、群衆から離れて、よくこの場所で熱心にお祈りするときを持っていたのです。弟子たちもイエス様のあとについていきました。ゲツセマネの園は、暗くとても静かでした。園の中に入るとイエス様は、弟子たちに「誘惑に負けないように祈りなさい」と言われました。そしてご自分も弟子たちから少し離れた場所にひざまずいて、祈り始めました。

□ポイント2 イエス様はお祈りをしました(40-46節)

イエス様は一人になり、このように祈られました。「わが父よ、もしできることでしたら、どうかこの恐ろしい杯をわたしから取り除いてください。しかし、わたしの思いではなく、あなたのお心のままになさってください。」これは「神様、もし私が十字架にかからなくても、何かほかの方法で人々を罪から救うことが出来るなら、そうして下さい。けれども私の願いではなく、あなたの願いを行なって下さい。私はあなたに従います」という意味です。

しばらく一人で祈りされたあとで、イエス様は弟子たちの所へ戻って来られました。弟子たちは目をさまして待っていたと思いますか?いいえ、弟子たちはそこで眠っていました。イエス様は、ペテロを呼び起こして「あなたがたは一時間も私と一緒に目をさましていことが出来なかったのか」「誘惑を受けた時に罪を犯さないように、目をさまして祈っていないさい」と言われました。それからイエス様は、またお祈りに戻って行かれましたが、ペテロはすぐ眠ってしまいました。ペテロもほかの人たちも、イエス様がその晩のうちに連れ去られて、次の日には十字架の上で死なれるということがわからなかったのです。

二度目のお祈りの時、イエス様は「わが父よ、この杯を飲むほかに道がないのでしたら、どうか、みこころが行なわれますように。」とお祈りなさいました。これは、「どんなに苦しまなければならなくても、私は自分の考えや、思いを押しつけるのではなく、あくまでも神様がなさろうとしていることに従います。」ということなのです。このお祈りは、私たちには想像もできないほど苦しいものでした。イエス様は、父なる神様のみこころが、ご自分を十字架にかけることだと知っていました。そしてイエス様はいつでも、神様のみこころどおりにするのがご自分の使命であることも知っていました。けれども、この「十字架にかかる」ということは、本当に特別なことだったのです。十字架に、手や足をくぎで打ちつけられたら、どんなに痛いことでしょう。十字架にかけられるのは、とても悪いことをした人だけですから、見物人たちにバカにされたり、「ざまあみろ」言われたりするでしょう。それでも、神様が一緒にいてくだされば、イエス様は恐ろしくなかったでしょう。ところが、イエス様の役目は、人間のすべての罪を背負い、身代わりとなって罰を受けることです。神様から離れお一人で十字架にかけられるのです。それが、イエス様にとって何よりもつらいことだったのです。

あまりにも苦しいので、弟子たちの所へ行けば、少しは悲しみも減るかと思って、イエス様はまた弟子たちの所へ行かれました。けれども、弟子たち眠っていました。

イエス様は前と同じように、一人で元の所へ戻ってお祈りされました。すると神様は天使をおくって、イエス様を励ましてくださいました。一生懸命に祈り続けるイエス様の顔から、汗がポタポタしたり落ちました。こんなに汗をかくまで祈るなんて、イエス様の苦しみはどれほど大きかったことでしょうか。そのように祈ったイエス様は、神様から、みこころに従う力を頂きました。このあと十字架にかけられるまで、イエス様が逃げようとしたり、泣いたり、不平をおっしゃることは一度もありませんでした。やがてイエス様は、お祈りをやめて立ち上がり、弟子たちの所へ行かれましたが、彼らはぐっすりと寝ていました。イエス様は「まだ眠っているのか。休んでいるのか。見よ。時が迫った。人の子は罪人らの手で裏切られるのだ。」と言われました。

□ポイント3 イエス様は逮捕されました(47-53節)

ちょうどその時、声が聞こえてきました、大勢の人がたいまつと棒を持って、園にはいって来たのです。「おい、イエスはどこにいるんだ?早くだせ。」とその人たちは怒鳴りました。イエス様を捕まえに来たのです。しかしその人たちは、誰がイエス様で、誰が弟子だかわからないのです。

その大勢の人たちの先頭に立って道案内をしたのは、なんと弟子の一人ユダでした。ユダがその人たちと一緒にいたのです。それは「銀貨30枚くれるなら、イエス様のいる所を教える」と約束したからです。ユダはイエス様を裏切ったのでした。ユダは「私がくちづけをするのがその人だから、つかまえなさい。」と言いました。そして一歩前へ出て「先生、いかがですか。」と言って、イエス様にくちづけをしました。ペテロはすっかり目をさました。そしてイエス様を守るために興奮して、刀を振り上げて、一人の人の耳を切り落してしまいました。イエス様はすぐに、その耳を切られた人に触って直してあげました。イエス様はなんの抵抗もされずに、ご自分から捕らえられました。弟子たちは皆、こわがって逃げてしまいました。そしてイエス様だけ、敵につかまえられ、連れて行かれたのでした。

結論 イエス様は神様の思い(みこころ)に従われました

でもイエス様はこわがってはいませんでした。それは園の中で、「わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい。」とお祈りしていたからです。

適用

- ①イエス様は父なる神様に従われました。もしイエス様が従わなかったら、私たちは救われませんでした。イエス様は全世界の人が罪の罰を受けないように、代わって死ななければならなかったのです。あなたは、イエス様が神様の言う通りの事をして下さって、十字架にかかって下さったことを、本当に良かったと思いますか?「私の代わりに罪の苦しみを受けて下さって、イエス様、ありがとうございます。」とこころからお祈りしましょう。
- ②十字架にかかることは、神の子イエス様にとっても、本当に大変なことでした。イエス様は人となられてこの地上にお誕生になられました。ですから肉体的にも、精神的にもとても苦しまれたのです。イエス様は、「この杯を取りのけてほしい」と、ありのままの心を父なる神様に申し上げ祈りました。しかし、ご自分の願いを、どうしてもかなえてもらおうとは思わずに、「自分の願いではなく、神様のみこころがなされますように」と祈ったのです。私たちも、自分のありのままの気持を神様に申し上げ、そして私にとって最善をなさって下さる神様のみこころに従う力が与えられるようにと祈りましょう。